

令和４年度 第２回地方独立行政法人徳島県鳴門病院評価委員会 議事録

日 時：令和４年８月２５日（木）１９：３０～１９：５８

場 所：（Ｗｅｂ開催） ※事務局等は県庁１１０５会議室

出席者：（評価委員）稲井委員、北畑委員、志摩委員、田中委員、土橋委員、吉田委員
（鳴門病院）森理事長、邊見院長、阿川副院長、美馬特任副院長、喜来看護局長、
土居事務局長、竹岡事務局副局長、檜本事務局次長、原田経営戦略課長

議題(1) 令和３年度に係る業務の実績に関する評価結果（案）について

・事務局から、資料１及び資料２に基づき説明

（委員長）

私の方から一点確認をさせていただきたいんですけど。昨年度も議論になったんですけども。例えばコロナの影響で、入院収益が下がったと。これをどう評価するか、ということが昨年度も議論になりまして。コロナ患者を受け入れながら、これくらいの減少で済んだ、っていうことで、Ａ評価にするっていう御意見と、やはりコロナの影響があったとしても、数値として明らかに前年度より減少していたり目標値に達していなければ、数値を見てこれはＢ評価にするっていう、議論があったかと思うんです。で、昨年度は、コロナの影響がどれくらいあったかという尺度がない、例えばコロナ患者を１０名受け入れたら、一般病床を１０減らしたらいいわけではなくて、物資・マンパワーのことを考えると、２０床、３０床、あるいはそれ以上減少しなくてはいけないという、そういう条件の中でやっている。ところが病院によっては、コロナ患者の数だけではなくて、重症度も違えば、病院の形態にも左右される。例えば、県立病院の海部病院なんかを例にとると、病棟が２つしかありません。そうすると、片方をコロナの受入れ病棟にすると、病院機能の半分を喪失してしまうという、非常に大きい影響を受けるところがある一方で、例えば大学病院のように、コロナ患者を主にＨＣＵだけで受けると、ＩＣＵとかサテライトのＩＣＵは温存されますので、通常の手術の件数とかが影響を受けずに、そこで受入れ可能、まあ一定数ですけども。そういう風に、なかなかコロナの影響をどれくらいっていうのが、評価が難しいので、昨年度は、最終的には収入の確保とか、資金計画のところの評価ってのは、割と実数字を見て決められたんですけど、今年度はどちらかというと、先程言った最初の方の考え方に立って評価されているので、ちょっと鳴門病院側が混乱しないかなという、心配もあるんですけど、今年度はこういう多くの委員の方が評価ということで、コロナの影響を加味しての評価になってるっていうことで、一応確認ですけども、よろしいですかね。

（各委員から特に意見なし）

あと、意見がちょうど本当に半々に別れたところもありますけど、今事務局からの御説明で、県の案としてはこういう形でっていうことで、御提示させていただいてますけど、特にそれに関して御異論等ございませんでしょうか。

（各委員）

異議なし。

（委員長）

はい、ありがとうございます。ではこれで、評価結果（案）について、評価委員会として原案のとおり了承ということにさせていただきます。ありがとうございました。

議題(2) 「公立病院経営強化ガイドライン」への対応について

・事務局から、資料３に基づき説明
・各委員から意見、質疑等はなし

以上